

2007 ヨーロッパツアー ポルトガル戦 Chibi優樹レポート



もう1度朝から調整に行き、やはりステアリングの具合がどうしても変わらない。
不安のまま1ヒートをむかえます。

前回は大波がありボートのスピードや性能をあまり気にしなくて良かった。
でも今回のコースはスピードもコーナリングも性能を重視しなくてはいけない。
この時点で初めて言葉の壁にぶつかった。
一生懸命私の不安を取り除こうと必死にピーターとウィムは話をしてくれる。そして迎えた1ヒート。抽選は1番！よし、テンションがあがる。

スタートの飛び出しは良かった。がアウトからハイドロにかぶせられ1位がミスコースをしたのがはっきり見えた。合流6位。時間はある。壁に囲われた水面、ボートが走れば波はでるはず...そう言いかけアクセセルを開ける。

前の混戦が射程距離に入る。

何とか一つでも前に...

が感じていたステアリングがハンドルが重い。船のせいにはしてはいけない。いけない...。そう思いながら走るがホワイトフラッグがでたころ、私は疲れはてていた。

なんて体力がないんだろう。

そのヒートは最後に一人を抜き結果4位。その次2ヒートは、違う船のチョイスを求めさせてくれた。本当に迷った。調整のできていないスピードはないが、ハンドルの軽い操作しやすい船を使うか、ハンドルが重く本来のコーナースピードが保てない船、でも全てを知り尽くした自分の船でいくか...

一度違う船でいく！決めたが不安は倍だった。ピーターはスピードの違いを気にしていたから。それがスタートで伝わってくる。がスタートは待ってくれない。同じくスタートの飛び出しは1番に飛び出し、1ブイまでの長い直線でハイドロにかぶせられる。

結果は4位。とにかく明日までにはなおさないと...たくさん知っている言葉を並べて、身振り手振り伝える。

自分の言いたい細かい事が言えない戸惑いに
ピーターはその夜、朝まで私のボートを触ってくれた。

そして朝。



6ヒート目の私は朝から話をした。ピーターの言葉は私を不安から解放してくれる。
「お前の船は速いがハンドルが堅いが、お前には操れる！だからお前の船で頑張ってもらいたい...」
どんな状況にいてもやはり自分の船は1番だと私も信じている。たとえスピードが遅くても、性能が劣っていても...

そして3ヒート。
体のならしがてら水上にでる。
直線でスタートスピードを確かめる。トップスピードが例え4ストに負けてもスタートで抑えれば
良い位置にいける。
そう確信した瞬間。

パフッ...

アクセルが利かない。すぐにエンジンを止めてポンプのワイヤーを確かめる。はずれていない...
ということはアクセルワイヤーがきれた。
ハンドルが利かないまますぐに陸に指示をする。
もう1台の船を持ってきて！

私が船を心底信じてやれなかったバツですね。すでに1ヒート前抽選は始まっている。レースに
間に合うか...ただそれだけで必死に陸を走る。スタート位置まで少し時間がかかる。
ピーターが慌てて戻ってくれるが全く調整ができていないもう1台の船をすぐにセッティングする
が、前の日にやけていたエンジンはそんなすぐにセッティングはだせない。が必死にデータを頼
りにたった5分ほどしかない中で走れる状況まで持っていった。

すぐにスタート位置に向かい、なんとか間に合う。
「スタートダッシュはでない。が走り出せば何とか持つ。速さはベターだ！ユキなら！」ピーター
が言った。
私の中でその時全くの不安も迷いも無かった。

走るしかない。走れるだけでも今はいい。

その言葉しか私の中に無かった。
案の定、スタートはベベ。合流までにスピードがのり始め、コーナーに入り4台程をパス。
その後ただ、ただ前を追いかけた。
ゴールまで約3周でまた一人パス。が直線で離される。そして最終周回2艇が射程距離、諦めない。
何位を走っているか全く解らなかったが、最終コーナー前でもう1人をパスし6位に終わった。

総合は5位。
悔しいが帰った私にすぐにピーターは「本当にごめんよ。でも僕はユキの走りをまた皆に見せれた
たからハッピーだ！ありがとう。」そう言ってくれた。